



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

「スピリチュアル・ツーリズム②」 海水パンツの家

シドニーはわが輩にとって初めての“異国”だ。関空/台北は3時間20分、そこから9時間もかかるが時差はわずかに2時間である。正午過ぎに着いた。岩さんの指示通りに電車(ライトレール)に乗り市中心街セントラル駅へ、そこで乗り換えゴードン駅に午後2時に着いた。

ホームに改札口がない。

(ありや、これならタダ乗りできるぞ)

「やあー、大魔王さん。ようこそシドニーへ」

懐かしき岩さんが、そこにいた。一度日本で会ってからの再会だから、10年ぶりだろうか。

旅行カバンを彼の車に保管、再び電車でセントラル駅に帰ることになった。彼はオーパール・カード(IC定期券)をもっているが、わが輩はそのまま引き返すので乗車券を買わなかった。

(これって、正確に言うと不正乗車だよ)

セントラル駅で捕まったら大恥ものだが、難なく通り過ぎた。

今回は滞在期間が短いので、とにかく一般的な観光地を案内してもらうことになった。

まずは腹ごしらえ。チャイナ・タウンで小籠包やギョウザを食べた。その後にテラス・ハウスが立ち並ぶドゥズ・ポイントを歩いた。

(なるほど、明るい観光地だ。眩しいぜ！)

家族に自慢するための証拠写真をまず1枚。定期船に乗ってハーバーブリッジの下を航行。そこで証拠写真を2枚。オペラハウスで3枚。

特に興味はないが、証拠写真を撮りまくった。

サーキュラーキー駅から再びゴードン駅に帰って来た。そこから車で10分程のところ彼の住居がある。

岩さんの奥さんがバーベキューの準備をして待っているという。5時に帰宅する予定が随分遅れてしまった。

ところで岩さんとわが輩の関係性を述べておかなければならない。

彼が大学生のころに出会った。その頃わが貧乏では、インド好きがわんさと集まっていた。接待役は母と妹であった。特に母は人が集まることを好んだ。彼の恩師も来たことがある。

彼はヒンディー語を学ぶためデリーに一年間留学したことがある。デリーで数回会い学校や学者宅

を案内してもらった。意義ある交流であった。

彼の父親が亡くなったとき甲問で旧宅を訪れたこともある。結婚披露パーティにも招待された。23年前、オーストラリアに移住する直前に、最後の夕食に招待してくれた。

今日のようにメール交信が容易でなかったので、音信不通状態になってしまった。試しに古いメール・アドレスに連絡したところ、「是非シドニーにお越しく下さい」と返信がきた。しかも「お泊り下さい」とある。

(おう！ Myフレンド)

しかし、読者諸氏よ。今だから告白しよう。

わが輩は彼が育った旧宅を知っている。わが貧宅と同じく長屋住まいであった。いや、わが貧宅の方が広がった。夫婦と息子と娘が住んでいるのに、転がり込むのはなんとも厚かましい気がした。三泊の内、一泊にするのか、二泊にするのか、それとも三泊か、わが輩は悩んだ。

わが旅の経験から、“依存した旅”は身につかない。考えた末、二泊だけにして一泊はホテルに泊まることにした。

(これは正解だった)

渡豪の前に、メールが届いた。

「こちらは夏だから、海水パンツをもってきて」

彼の“貧宅”に着いたとき、その真なる意味を知った。

今回はその話から始めようではないか。読者諸氏よ。